

【マジパンをかぶせたケーキ】『世界で一番の贈りもの』 マイケル・モーパーゴ 著  
秘密の引き出しから見つけたのは、戦場の最前線で戦う兵士が妻にしたための手紙。そこには、クリスマスの夜に戦場で起きた信じられないような出来事が記してありました。  
本来敵同士である兵士たちがその夜だけは、共に歌を歌い食べ物を分け合いました。手紙の送り主ジムは、敵軍の将校ハンスに妻が焼いてくれたケーキを振る舞います。マジパンをかけたそのケーキは、二人にとって何よりも美味なごちそうだったのではと感じました。

73期 R. N

【季節外れのきりたんぼ】『あつあつを召し上がれ』 小川糸 著  
「我が家のクリスマスのごちそうは、必ずきりたんぼと決まっていた。」  
主人公由里の父が亡くなって、もうすぐ四十九日を迎える。そこで母と由里は、父が大好物だったきりたんぼを食べることにした。もしかしたらきりたんぼの匂いで父が戻ってくるかもと期待を込めて...  
このお話を読むと、家族のほっこりとした温かみを感じられます。 74期 M. M  
※この本は本校図書館にはありません

【シフォンケーキ、チョコレート】『かがみの孤城』 辻村深月 著  
同級生からの仕打ちが原因で不登校になってしまった安西こころ。ある日、自室の鏡に吸い込まれてしまい、気が付くと城の前になりました。その城の中で自分と似た境遇の6人に会い...  
一緒に過ごすうちに次第に打ち解け、クリスマスパーティーを開催することになったこころ達。そのシーンに、クリームと果物で飾られたシフォンケーキやチョコレートのバラエティーパック、ストロベリーティーなどが出てきます。私は普段紅茶を飲まないのですが、物語に出てくるストロベリーティーを飲んでみたくくなりました。

76期 T. O

# 冬のごちそう特集

【おでん】『コンビニたそがれ堂 猫たちの星座』 村山早紀 著  
本当に欲しいものがある人だけが辿り着けるコンビニ、たそがれ堂。他人の幸せを願って生きてきた人たちの人生を猫と共に振り返る、冬の少し切ない短編集です。  
この作品の中で私がおすすめしたいのはおでんです。  
「サンタクロースの昇天」では周太郎さんがこたつで猫と共に食べ、「勇者のメロディ」ではユリエさんがたそがれ堂でコーヒーと一緒に頼んだおでん。  
読んでいて心があたたかくなる、2人が猫と過ごした冬の物語をぜひ読んでみて下さい。

75期 Y. A

【クリスマスのディナー】『若草物語』 ルイザ・メイ・オルコット 著  
「冬のごちそう」といえば、私はクリスマスのごちそうを思い浮かべます。  
そこで、『若草物語』の1シーンである、クリスマスのディナーをご紹介します。  
『若草物語』は1860年代のアメリカが舞台となっていて、貧しいながらもともに支え合い、前向きに生きていく4人姉妹の物語です。クリスマスの夜、その4人姉妹のもとに可愛いケーキやアイスクリームなどのごちそうが並ぶのですが、さて、このごちそうはどこから来たのでしょうか...?

77期 M. S

【ジンジャー・パン】『風によってきたメアリー・ポピンズ』 P.L.トラヴァース 著  
冬の冷たい風によってきたメアリー・ポピンズは、数々の不思議を振りまいていきます。空に貼り付けると本物の星になって輝く星型の金紙も、その一つです。  
私が紹介するのは、その紙をのせたジンジャー・パンです。生姜というすりおろした生姜しか思い浮かばなかった子供時代は、「え？生姜でパン？辛そう...。」と思ってしまった一品ですが、自分で作ってみると実際はパンというよりクッキーでした。食べてしまえばもう腐。是非、皆様もお家で作ってみてください。

77期 K. O

【ペーターが食べたチーズとじゃがいも】『ハイジ』下 ヨハンナ・シュピリ 著  
『ハイジ』には想像するだけでお腹が空いてしまう食べ物がたくさん出てきます。  
その中でも私が紹介するのは、おばあちゃんに会える嬉しさのあまり食べ物が喉を通らないハイジが、ペーターにあげたチーズとじゃがいもです。このごちそうはかわいい事件を引き起こしてしまいます。  
それがまたクスッと笑って読者を和ませてくれます。

73期 Y. Y

